



2024年証券アナリスト第1次試験（春試験）

解答速報！

2024/05/10 現在

科目Ⅱ

（財務分析、コーポレート・ファイナンス）

第1問（30点）

問1 C 問2 B 問3 C 問4 D 問5 A 問6 D 問7 C 問8 B
問9 C 問10 A 問11 C 問12 D 問13 B 問14 A 問15 D

第2問（10点）

問1 D 問2 B 問3 C 問4 A 問5 C

第3問（12点）

I

問1 C 問2 D 問3 E

II

問1 B 問2 A 問3 B

第4問（24点）

(1)

① A ② C ③ J
ア E イ C ウ C

(2)

④ J ⑤ H ⑥ G

(3)

⑦ I ⑧ D
エ A オ C カ D キ B

(4)

⑨ H ⑩ C ⑪ F ⑫ E
ク D ケ E コ E サ B シ D

この解答速報の著作権は TAC（株）に帰属するものであり、無断転載・転用を禁じます。

TAC

第5問（24点）

I

問1 C 問2 A 問3 C 問4 C 問5 B 問6 B 問7 D 問8 B

II

問1 D 問2 B 問3 D 問4 A 問5 E 問6 B

この解答速報の著作権は TAC（株）に帰属するものであり、無断転載・転用を禁じます。

なお、この解答速報は TAC 独自の見解に基づくものであり、正解であることを保証するものではありません。また、後日情報を更新する場合がありますので、ご質問などの受付はいたしかねます。

2024年（春）証券アナリスト1次試験

科目Ⅱ（財務分析／コーポレート・ファイナンス）

科目Ⅱの出題については、大問5問で構成され、第1問から第4問が財務分析（財務会計と財務諸表分析）、第5問がコーポレート・ファイナンスであった。近年の出題と比較すると総じて難易度の高いものであった。具体的な内容は、以下のとおりである。

第1問の正誤選択問題は、15問の出題であった。非財務情報、国際財務報告基準(IFRS)、財務諸表の仕組み、無形固定資産、キャッシュ・フロー計算書に基づく安全性指標については、かなり細かい内容であった。一方、その他の包括利益、EPS、純資産の部、税効果会計、棚卸資産、連結会計、外貨換算会計については、是非とも正答したい内容であった。

第2問の個別計算問題は、5問の出題であった。営業活動によるキャッシュ・フロー、減価償却に関する見積りの変更、のれん、キャッシュ・フロー見積法、会社法上の分配可能額とバラエティに富んだ計算問題であった。複雑な条件設定もあったが、計算そのものは比較的容易な問題が多かった。

第3問の総合計算問題は、6問の出題であった。Ⅰ満期保有目的の債券(3問)、Ⅱ退職給付会計(3問)について出題された。Ⅰの満期保有目的の債券については、問1の実効利子率の計算に戸惑ったかもしれない。方程式を立てて正攻法で解答するか、選択形式ならではの単利計算で近似値をとるか、いずれにせよ問1が、問2、問3に影響するため、得点を積み上げるのは難しい設定であった。Ⅱの退職給付会計については、問題の調整表をうまく利用すれば、完答が期待できる内容であった。

第4問の分析総合問題は、(1)のROA及びその分解は完答が望まれる。(2)の百分率損益計算書、(3)の春試験では定番化されつつある百分率貸借対照表については、売上高や総資産で割るだけとはいえ面倒な設定となっていた。(4)は、生産性が出題された。稀な出題ではあるものの、前期以前の検算用のデータも揃っており、計算そのものは容易な設定となっていた。

第5問のコーポレート・ファイナンスは、Ⅰコーポレート・ファイナンス全般(8問)、Ⅱ事業部の評価(6問)であった。24点の配点に対して、14問出題されており、時間的には厳しい設定となっていた。Ⅰについては、問1、問4、問7は細かい内容であり、5フォース・モデル、レバレッジ度、CCCは得点したい内容であった。Ⅱについては、一見すると複雑な設定となっていたが、問1以外は手間もかからず、冷静に対処できれば得点しやすい内容であった。

以上